

## 事例研究報告

特別支援学校小学部児童が、  
自立課題に取り組むことで、  
一人で落ち着いて過ごすことができるための支援

## 児童の実態

小学部男子 社会年齢2歳0ヶ月

### 【ことばの受容】

- 具体物や、一部分の写真カードを利用したスケジュールを理解できる。
- 日常生活での簡単な指示「立つ」「座る」「ちょうだい」「とって」「おかたづけ」等の言語指示を理解することができる。

### 【ことばの表出】

- 拒否場面で「イヤ」発語あり。
- カードを用いて、着替えと自立課題の終了報告ができる。
- 給食場面において、カードを使った「おかわりください」「ごちそうさま」のやりとりを学習中。

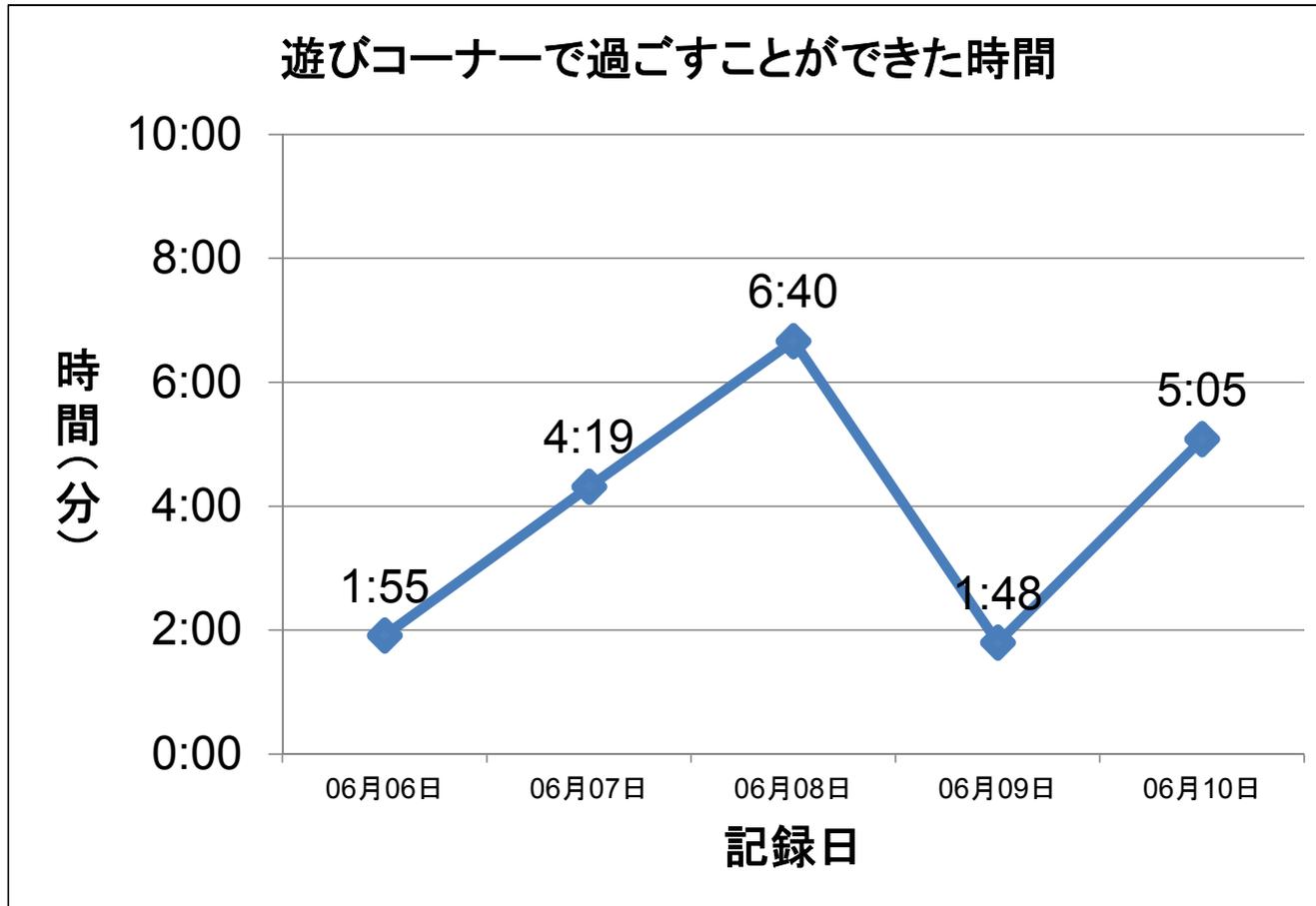
## 教員の考え

「遊びコーナーで適切に遊びをしてほしい。」



- 一つの遊びが続かない、続いてても2～3分程度。  
(同じおもちゃでも、15分程度過ごせる時もある)
- 遊びグッズを複数持たせると、投げたり窓や壁にぶつかけたりする。
- 飽きてくると、おもちゃを投げる、泣き叫ぶ、壁をけることがある。

## 指導前の記録



遊びグッズ一覧	
・風船(しぼんだ物)1	※
・風船(しぼんだ物)2	※
・風船(しぼんだ物)3	※
・風船(ふくらんだ物)	※
・本(のりもの)	
・本(すいぞくかん)	
・本(トミカどこでもシールブック)	
・本(でこぼこフレンズ)	
・たいこ絵本	
・どうよう絵本	
・へびのおもちゃ	
・黄色い鳥のおもちゃ	
・シリコン片(オレンジ)	
・シリコン片(緑)	
・シリコン片(サッカーボール)	
・シリコン片(半透明のふた)	
・靴下	

※風船は日によって変わることがある。

## アドバイザーからの助言

- 「〇分ここにいて」と休憩コーナーに促すのは、教員の都合。
- 着席して自立課題に取り組む時間を増やすことが大切。
- 課題ができたら、ごほうびを渡し、作業熱心な子にする。
- 自立課題で行う課題数(ラーンユニット)を増やすことから始めましょう。



## 指導目標の見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、  
自立課題に取り組むことで、  
1日の中で、75～130ラーンユニット分の課題に  
取り組むことができるように指導目標を考えました。

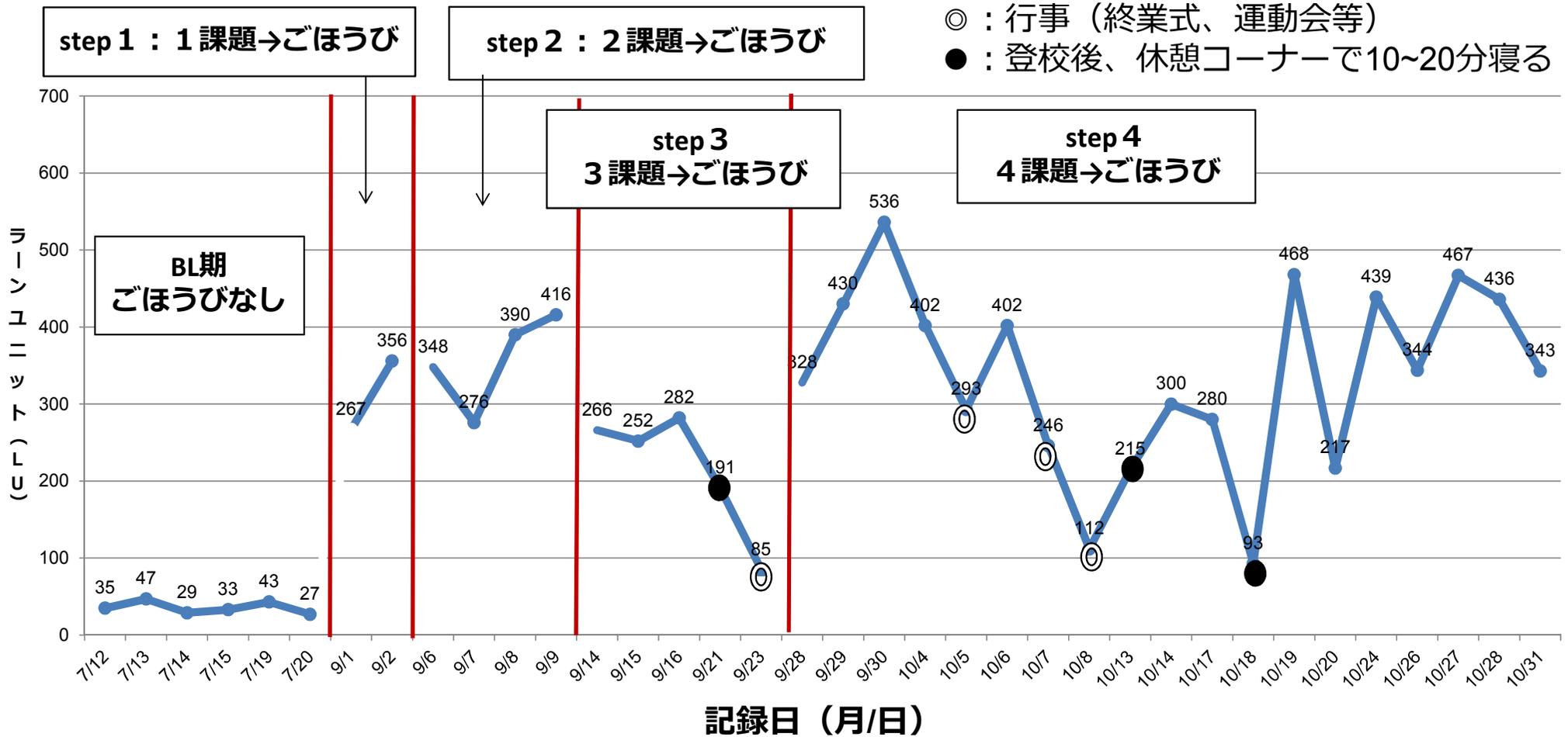
## 指導1: 自立活動のラーンユニット数を増やす

- Step1: 1課題提示→ごほうび(9/1~9/2)
- Step2: 2課題提示→ごほうび(9/5~9/13)
- Step3: 3課題提示→ごほうび(9/14~9/26)
- Step4: 4課題提示→ごほうび(9/27~12/1現在)

# 指導1の成果

## 一日のランユニット数

課題をすると、ごほうびがもらえることをすぐに理解できるようになったため、休憩コーナーに行っても、すぐに課題をしにくるようになりました。



# 結果

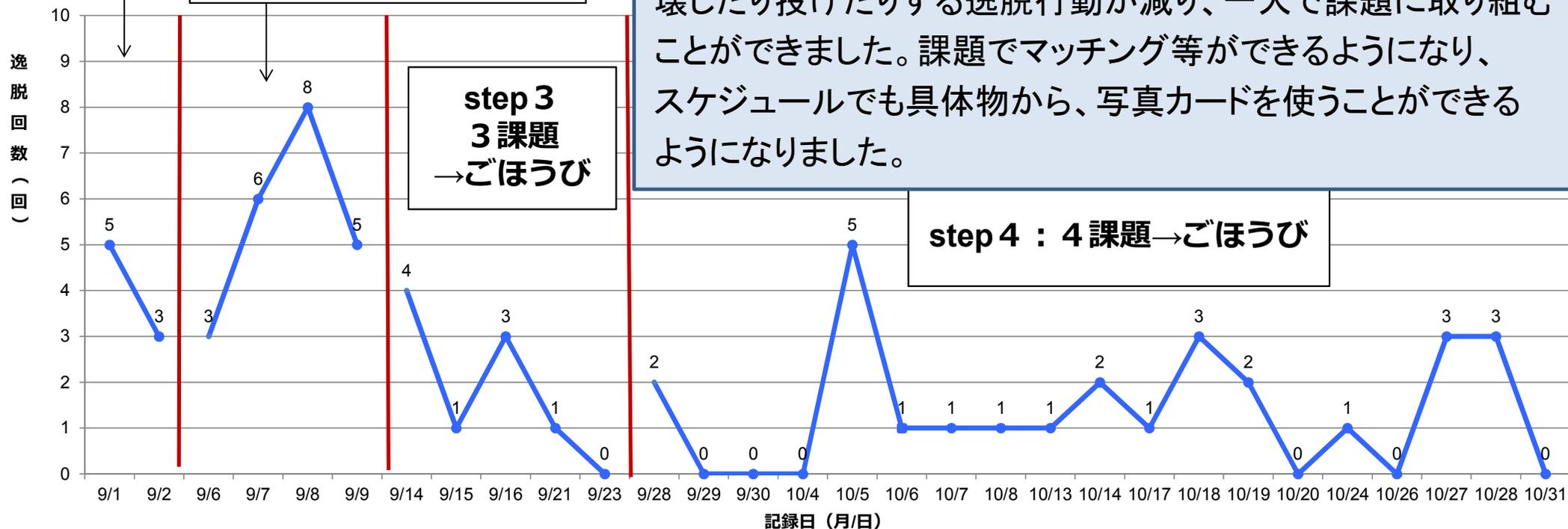
## 課題中の逸脱行動 (課題を投げる、壊す、やってない、離席する等)の回数

step 1 : 1 課題→ごほうび

step 2 : 2 課題→ごほうび

step 3  
3 課題  
→ごほうび

step 4 : 4 課題→ごほうび



教員が課題を入れ替えている間、着席して待ったり、休憩コーナーで横になって過ごす時間が増えたりしました。課題を壊したり投げたりする逸脱行動が減り、一人で課題に取り組むことができました。課題でマッチング等ができるようになり、スケジュールでも具体物から、写真カードを使うことができるようになりました。

# ここが成功のポイント



- 「問題行動」よりも「自立課題の取り組み」を増やすことに着目し、1日あたりのラーンユニット数を増やしました。
- 着席して、自立課題に取り組む時間が増えたことで、休憩時間が減り、逸脱行動も減りました。
- 自立課題に取り組むことで様々なスキルが定着し、日常生活場面にも般化しました。